

ビゼー / 劇音楽

アルルの女

朗読(日本語)付き全曲版 演奏会形式(日本語字幕付原語上演)

Georges Bizet
Musique de scène
"L'Arlésienne"

語り、バルタザール、他: **松重 豊**

Balthazar, narrator, Yutaka Matsushige

フレデリ: 木山廉彬
Frederi, Yukiaki Kiyama

白痴(フレデリの弟): 的場祐太
The Idiot/Frederi's younger brother", Yuta Matoba

ヴィヴェット、フレデリの母: 藤井咲有里
Vivette, Frederi's mother, Sayuri Fujii

プーランク / オペラ

人間の声

演奏会形式(日本語字幕付原語上演)

Francis Poulenc
Opera
"La Voix humaine"

女: **森谷真理(ソプラノ)**
Solist, Mari Moriya(soprano)

指揮: **佐藤正浩**
Masahiro Sato, Conductor

管弦楽: **ザ・オペラ・バンド**
The Opera Band

コーラス: **武蔵野音楽大学合唱団**
Musashino Academia Musicae Chorus

2022 **1/8** | 土 | 14:00開演
(ロビー開場13:00)

Sat.8.Jan. 2022, 14:00 Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall
東京芸術劇場コンサートホール

S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,000 D ¥1,500

2021/9/25(土)一般発売



東京芸術劇場ボックスオフィス
0570-010-296 (休館日を除く10:00~19:00)
<https://www.geigeki.jp/t/>

チケットぴあ
イープラス
ローソンチケット

0570-02-9999 [24時間・音声自動応答 Pコード:200-388]
<https://pia.jp/t/geigeki/>
<https://eplus.jp/geigeki/>
<https://l-tike.com> [音声自動応答 Lコード:33058]

*高校生以下1,000円(枚数限定、要証明書、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱い)
*障害者手帳をお持ちの方は、割引料金でご鑑賞いただけます。詳しくは東京芸術劇場ボックスオフィスまでお問い合わせ下さい(要事前予約)。

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場/アーツカウンシル東京/東京都

助成:  文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会
 公益財団法人朝日新聞文化財団

【注意事項】 ※未就学児の入場はお断りいたします。※やむを得ぬ理由により出演者等変更の可能性がありますのでご了承ください。※座席により一部字幕が見づらい場合がありますのでご了承ください。※公演中止及び当劇場の新型コロナウイルス感染予防ガイドラインによる対象者を除き、ご予約・ご購入いただきましたチケットのキャンセル・変更は承れません。※営利を目的としたチケットの転売は固くお断りします。※公演中の入退場、写真撮影、録音、録画は、固くお断りいたします。※開演時刻に遅れますと、長時間入場をお待ちいただいたり、自席にご案内できない場合がございます。※感染予防及び公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前予約・引き取り・購入をおすすめいたします。



東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

2つの作品に共通するテーマは『愛と死』。時を隔て、愛に殉じ自ら死を選ぶ男女の物語が今、結びつく…
フランスが生んだ二人の天才、ビゼーとプーランクの代表作が今、現代に生きる私たちと邂逅する。

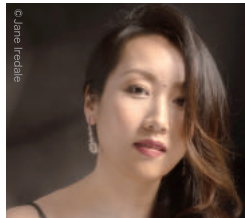
ビゼーの傑作、『アルルの女』は組曲版オーケストラピースとして馴染み深い作品であるが、オリジナルの劇音楽として全曲を朗読付きオーケストラによる形式で上演する稀有な機会となる。その音楽は、決してどかな南仏の田園風景や風俗の心象風景ばかりではなく、本来意図された悲劇的な劇音楽として、ビゼーが意図した、その本来の姿を明らかにするであろう。語り(バルタザール他)は、名優・松重豊を中心に《東京演劇道場》メンバーが協を固め、オーケストラと日本語朗読による本格的上演が、いよいよ実現する。

『人間の声』はプーランクが書いた2本のオペラ作品(『ティレジアスの乳房』、『カルメル会修道女の対話』)を経て辿りついた最後を飾る名作。ジャン・コクトーの台本を基に作曲家自身と初演時に“ある女”を演じ歌ったドゥニーズ・デュヴァルが、それぞれ自己の経験に基づいた台本を再構築した作品。今回、充実著しい我が国を代表するソプラノ、森谷真理が満を持して“ある女”に挑む。



松重 豊【語り、バルタザール、他】

1963年生まれ、福岡県出身。蜷川スタジオを経て、映画、ドラマ、舞台と幅広く活躍。近年の主な出演作として、映画「検察側の罪人」、「ヒキタさん!ご懐妊ですよ」、今秋公開の「老後の資金がありません!」にも出演。ドラマでは、「きょうの猫村さん」、「今ここにある危機とぼくのご好意度について」など。「孤独のグルメ season9」が7月から放送開始。エフエム横浜「深夜の音楽食堂」でラジオパーソナリティも務め、昨年には自身初の書籍「空洞のなかみ」を上梓する。



森谷真理【女(ソプラノ)】

メトロポリタン歌劇場『魔笛』夜の女王役の成功で一躍注目を集め、その後アメリカのみならず欧州各地で活躍。リンツ州立劇場では『椿姫』『ラクメ』など数多くの作品で主演し、ウィーン・フォルクスオーパー、ライブツィヒ・オペラなどにも客演。国内でも『蝶々夫人』『サロメ』などで高評を得、コンサートでもN響をはじめ国内外の主要オーケストラと共演。令和元年「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」にて国歌独唱を務めた。二期会会員。



佐藤正浩【指揮】

東京芸術大学、ジュリアード音楽院を経てサンフランシスコ・オペラのコーチに就任。また、ケント・ナガノ氏の推薦でリヨン国立歌劇場の首席コレペイトールとなり活躍する。2000年から指揮活動を開始、イギリス・ダーティントンでモーツァルト「イドメネオ」、R.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」を指揮。新国立劇場でグルック「オルフェオとエウリディーチェ」、プッチーニ「トスカ」、東京オペラプロデュース「放蕩者のなりゆき」、ひろしまオペラルネッサンス「カルメル修道女の対話」、三善晃「遠い帆」等を指揮し注目を集める。東京芸術劇場コンサートオペラシリーズでは『ドン・カルロス』(パリ初演版日本初演)、『サムソンとデリラ』、『真珠とり』を指揮し、大きな成功を収めた。オペラ彩主催、ヴェルディ「ナブッコ」で三菱UFJ信託音楽賞、会津でのオペラ「白虎」(初演)で佐川吉男音楽賞を受賞。



木山廉彬
【フレデリ】



的場祐太
【白痴(フレデリの弟)】



藤井咲有里
【ヴィヴェット、フレデリの母】



ザ・オペラ・バンド【管弦楽】

2005年、東京オペラグループ「フィガロの結婚」上演時に、佐藤正浩(指揮)と今野京(コントラバス奏者)により設立された。Orchestre "Les Champs-Lyriques"の名称で活動してきたが、2015年、10周年を機に“ザ・オペラ・バンドに変更。オーケストラ・ピットに入り演奏することを目的とし、首都圏プロオーケストラ演奏家を中心に編成される。これまでに、「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「蝶々夫人」「ナブッコ」「オテロ」「仮面舞踏会」「マクベス」「マリア・ストゥアルダ」「ゼッキンゲンのトランペット吹き」「白虎」(加藤昌則)、2014年東京芸術劇場「ドン・カルロス(仏語版日本初演)」、2016年『サムソンとデリラ』、2018年『真珠とり』などに出演し、精緻なアンサンブルと華麗なドラマを聴かせると好評を得ている。「ナブッコ」、「マリア・ストゥアルダ」で三菱UFJ信託音楽賞を、オペラ「白虎」で佐川吉男賞を受賞した。

チケット料金/座席表

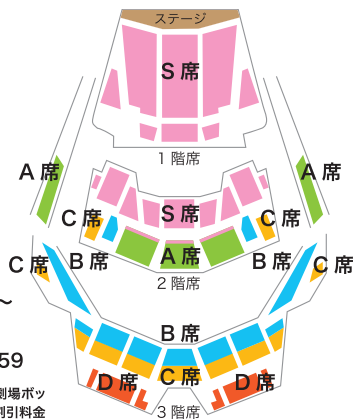
- S ¥6,000 A ¥5,000
- B ¥4,000 C ¥3,000
- D ¥1,500

一般発売: 2021年9月25日(土)10:00~

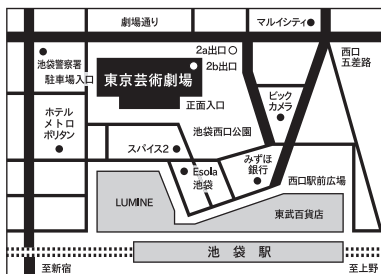
芸劇先行(WEB先着):

9月18日(土)10:00~9月24日(金)23:59

※高校生以下1,000円(枚数限定、要証明書、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱い)※障害者手帳をお持ちの方は、割引料金でご鑑賞いただけます。詳しくは東京芸術劇場ボックスオフィスまでお問い合わせ下さい(要事前予約)。



本公演には、託児サービス(予約制・有料)がございます。
お問合せ:0120-415-306 (ミラクスシッター)
(土・日・祝祭日を除く平日、午前9時から午後5時まで。)
*ご予約の際「東京芸術劇場の託児予約の件で」とお問い合わせ下さい。



東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

東京芸術劇場: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 (電話)03-5391-2111(代表)
アクセス: JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線「池袋駅」西口徒歩2分(池袋駅地下通路2b出口と直結)